パブリックコメント期間：令和２年７月１日～7 月 31 日

（案）
（仮称）新潟駅万代広場
整備計画

令和２年７月

新潟市

作成担当　新潟駅周辺整備事務所

＜目　次＞

1. はじめに 2

2. 新潟駅周辺整備事業について 3

3. 万代広場整備計画の基本コンセプト 5

4. 新潟都心の都市デザイン　-次世代のまちづくりに向けて- 6

5. 新潟駅万代広場等整備検討委員会 11

6. 万代広場基本設計のポイント 14

7. 万代広場整備計画案イメージスケッチ 18

8. 万代広場の整備スケジュール 29

9. おわりに 30

1. はじめに

本市では、新潟駅付近連続立体交差事業を契機とする、新潟駅周辺整備事業を進めています。この新潟駅周辺整備事業は、鉄道を横断する幹線道路整備や駅前広場の再構築により、安全で円滑な交通機能の強化や駅利用者の利便性向上、周辺土地利用の高度化など大きな効果が期待されています。

しかしながら、現在、本市の人口は、平成 17 年をピークに減少局面に入っており、少子超高齢化が進行している中、日本海側の都市と都市とをつなぐ「日本海拠点都市」として本市の拠点性を高め、持続的に発展する都市づくりを進める必要に迫られています。

このことから、都市間競争における優位性を獲得するため、都市イメージの発信や交通結節機能の強化などの付加価値を高めて本市の拠点性向上を図ることが重要であると考えています。

新潟駅周辺整備事業のうち、駅前広場については、これまで平成 11 年度において市民有志からなる実行委員会と市との共催で、「わいわいガヤガヤ駅サイト」（市民意見交換会）を開催し、平成 13 年度の「新潟駅　駅舎・駅前広場計画提案競技」（以下、提案競技という。）の企画会議・審査委員会設置、応募登録受付開始を経て、翌 14 年度には提案競技が開催され、最優秀賞を受賞した作品をもとに、市民ワークショップにおける市民意見を取り入れながら、将来にわたり市民が誇れる駅前広場となるよう、計画策定を行ってきた経緯があります。

平成 29 年度からは「新潟駅万代広場等整備検討委員会」を開催し、新潟の顔となる万代広場の計画について、平成 13、14 年度の提案競技最優秀賞受賞作品の基本コンセプトを継承しつつ、時代の変化や課題を的確に捉え、専門的・学術的見地から意見をいただくとともに、開港 150 周年を契機として描かれた新潟都心の都市デザインも踏まえながら、万代広場の整備計画（案）を作成しました。

2. 新潟駅周辺整備事業について

① 新潟駅周辺整備事業とは

日本海側の拠点にふさわしい都市機能の強化に向けて、鉄道在来線の高架化や幹線道路、駅前広場等の都市基盤をはじめとした、駅周辺市街地の総合的な整備を図るものです。

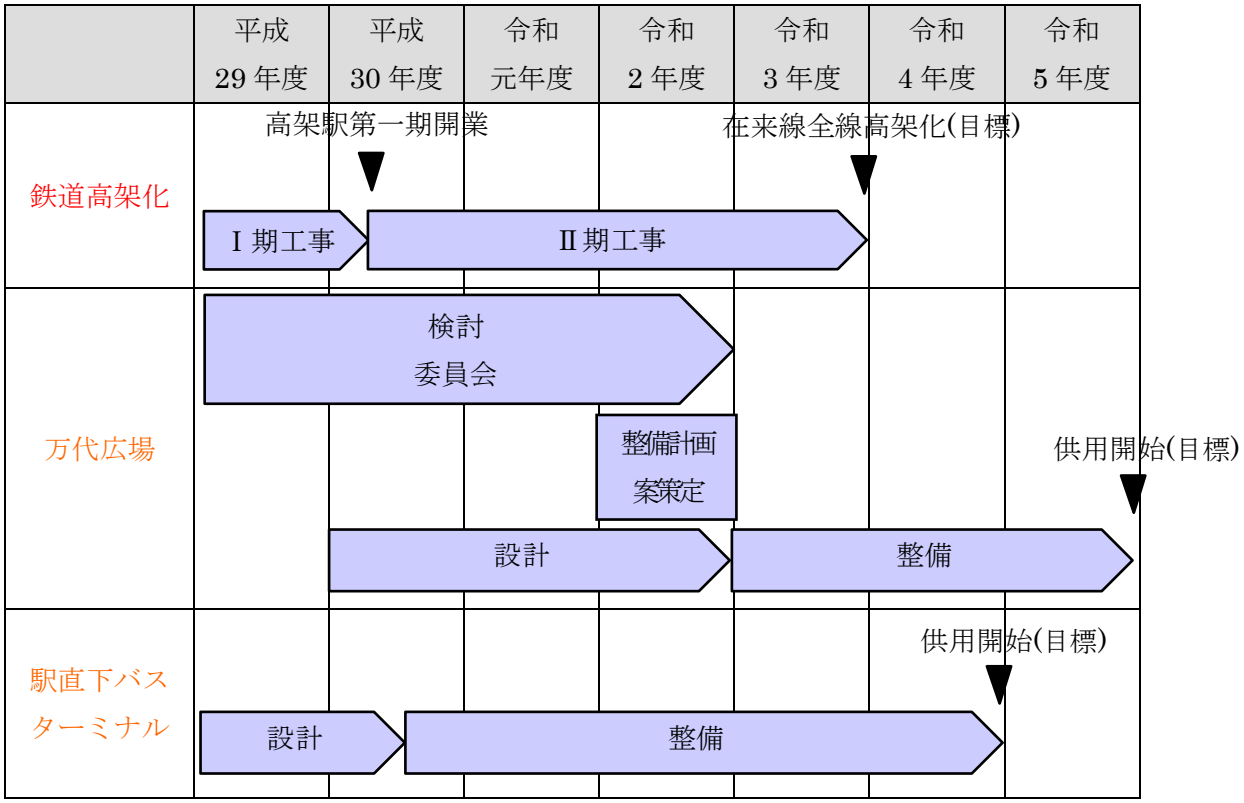
鉄道高架化事業	鉄道在来線の高架化　延長約 2.5km、踏切の除却 2 箇所
幹線道路整備事業 (立体交差道路、関連幹線道路)	7 本の都市計画道路整備（うち、新設立体交差道路 3 本）
駅前広場整備事業	万代広場約 18,500 ㎡、駅直下バスターミナル約 4,000 ㎡、 南口広場約 14,000 ㎡（H21 完了）

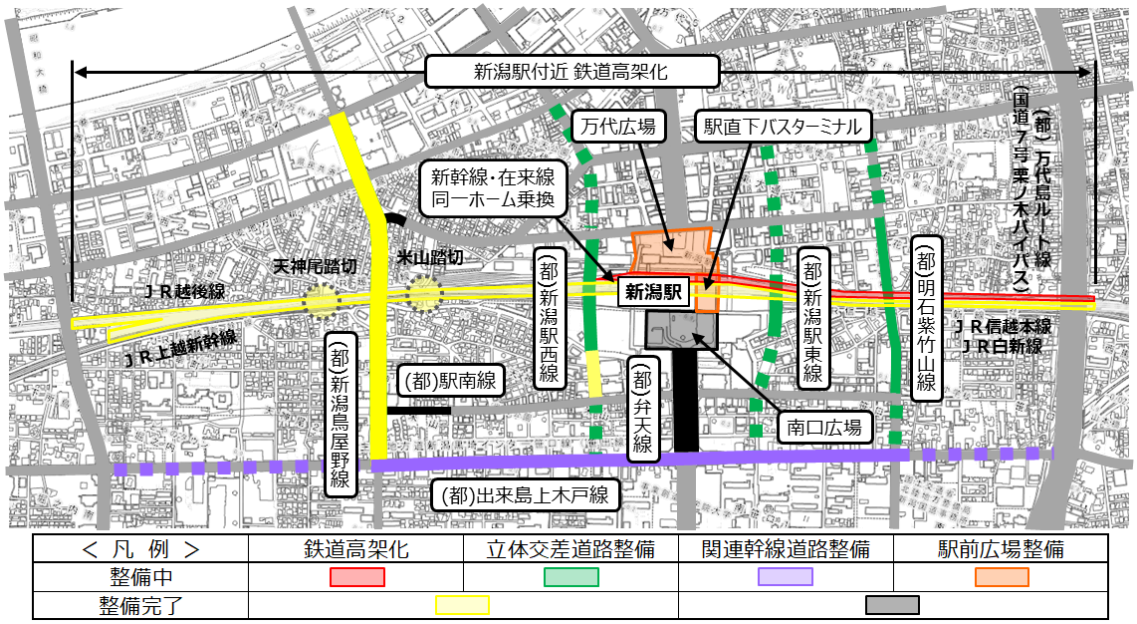
② 新潟駅周辺整備事業の経緯

（全体、鉄道高架化、幹線道路整備、駅前広場整備事業等）

年　度	事　業　経　緯　等
平成 4 年度	新潟県・新潟市共同調査開始
平成 10 年度	「新潟駅周辺整備基本構想」公表
平成 13、14 年度	新潟駅　駅舎・駅前広場計画提案競技　実施 H13：市民意見の聴取、作品募集開始 H14：市民意見交換会、公開審査、最優秀作品選定
平成 13～16 年度	「新潟駅周辺整備計画素案」の公表、 説明会、市民ワークショップなどの実施
平成 16 年度	新潟駅前広場基本計画策定(万代、南口広場、駅直下バスターミナル)
平成 17 年度	「新潟駅周辺整備計画」都市計画決定
平成 18 年度	連続立体交差事業、都市計画道路(3 路線)　事業認可
平成 19 年度	政令市移行に伴い連続立体交差事業の事業主体が県から市へ移管
平成 21 年度	新潟駅南口広場第一期工事完了
平成 23 年度	連続立体交差事業及び関連事業計画の見直し
平成 27 年度	新潟駅万代広場、駅直下バスターミナル　事業認可
平成 30 年度	高架駅第一期開業
令和元年度	立体交差道路「新潟鳥屋野線」供用開始
(今後の予定、目標)	
令和 3 年度	在来線全線高架化
令和 4 年度	駅直下バスターミナル　供用開始
令和 5 年度	新潟駅万代広場　供用開始

③ 全体スケジュール（駅部）





3. 万代広場整備計画の基本コンセプト

平成 13、14 年度に実施した「新潟駅　駅舎・駅前広場計画提案競技」（以下、提案競技という。）では、駅舎・駅前広場に対する市民の意見が具体的に盛り込まれた「市民の想い」を応募要項別冊に位置付け、応募者が市民意見を反映できるものとしました。この提案競技において最優秀賞を受賞した作品の**基本コンセプトが、『人、交通、自然が気持ちよく循環する「都市の庭」』**です。本市では、平成 14 年度以降、この基本コンセプトを基に、市民ワークショップなどを開催し、市民のみなさまのご意見をいただきながら、万代広場整備計画の熟度を上げてきたところです。また、平成 29 年度より新潟駅万代広場等整備検討委員会を開催し、新潟の顔となる万代広場の計画について、基本コンセプトを継承しつつ、時代の変化や課題を的確に捉え、専門的・学術的見地から意見をいただきながら見直しを行い、万代広場の整備を進めていくこととしています。

年　度	市　民　参　加　等　の　実　績
平成 10 年度	新潟駅周辺まちづくり懇談会、説明会、シンポジウム、アンケート
平成 11 年度	わいわいガヤガヤ駅サイト（市民意見交換会）
平成 13、14 年度	**新潟駅 駅舎・駅前広場計画提案競技**
平成 16 年度	新潟駅駅前広場基本設計における市民参加ワークショップ
平成 20 年度	新潟駅・駅前広場の活用を考える「市民組織設立準備会」勉強会
平成 24 年度	新潟駅万代広場を考えるワークショップ
平成 26 年度	新潟駅万代広場を考える市民ワークショップ
平成 29 年度～	**新潟駅万代広場等整備検討委員会**

4. 新潟都心の都市デザイン　-次世代のまちづくりに向けて-

本市では、平成 30 年に新潟駅高架駅第一期開業、令和元年に開港 150 周年など、新潟のまちづくりが大きな節目を迎えたことを契機とし、拠点性の向上及びそのための都心部の役割の明確化を図るため、次の 150 年のまちづくりを見据えた新潟都心の都市デザインを描きました。

この都市デザインの中で、新潟駅は都心軸の起点となっており、**万代広場についても**、『人、交通、自然が気持ちよく循環する「都市の庭」』という基本コンセプトを継承しつつ、この**都市デザインの理念も踏まえながら、整備計画案を検討**してきました。

以下で、新潟都心の都市デザインについてご紹介いたします。

150年をかけて形成されてきた都心軸（新潟駅～古町）を、次世代のアイデンティティに

新潟は、かつて奉行所があった古町エリアから
新潟駅へつながる「都心軸」を中心に発展を遂げてきました。

開港150年を契機として、この軸の重要性を再認識し、
軸周辺のゾーンが、それぞれ魅力をさらに増進させることが求められています。
そのために、多様な主体によるまちづくりを行うことでエリア全体に賑わいがもたらされ、
都心軸が次世代のアイデンティティとなるように取り組んでいきます。

現在、新潟市では、新潟駅周辺整備や万代島賑わい創出など各プロジェクト間で
都市デザインの理念を共有することで、連携して具体的な取り組みを進めています。

これからは、『新潟都心の都市デザイン』のもと、市民をはじめとした多世代、
多分野の人たちが同じ将来ビジョンを共有しながら、
エリア全体で統一感があり魅力あるまちづくりに取り組むことが必要です。
また、都心エリアでの様々なプロジェクトについても、
人を中心とした空間づくりや新たな賑わい創出に向けて、
多分野のヒト・モノ・コトがつながり、新潟の暮らしがより快適で
豊かなものとなるように、官民連携で取り組みましょう！

〔「新潟都心の都市デザイン」概要版リーフレットより〕

❶ はじめに

参考資料：新潟歴史双書、図説新潟市史、新潟市のあゆみ

①なぜ都市デザインを描くか

求められている拠点性の向上

○少子・高齢化に対応し、持続可能な都市になるため、市民が集うにぎわい創出や交流人口の拡大による活性化が不可欠

拠点性向上のための都心部の役割の明確化

○中枢的な業務・商業機能が集積する都市の象徴的な市街地
○様々な魅力・交流から、新たな情報発信や文化が創造・発信される場所
○高次都市機能が集積した「都市の顔」

新潟はまちづくりの節目を迎える

○2018 年度は開港 150 周年や新潟駅の高架駅第一期開業など新潟のまちづくりが大きな節目を迎える

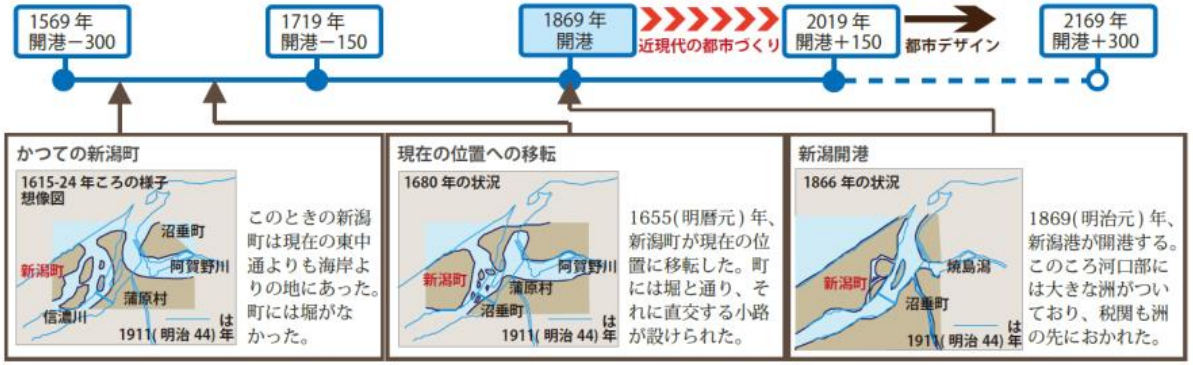
都市デザインのポイント

○新潟がこれまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、それが市民のくらしと結びつくような、魅力ある新潟のイメージが持てるデザイン
○コンセプトが明確でわかりやすく、共通の視点をもつことでこれからのまちづくりに活かせるデザイン

②都市デザインを描くために

次の 150 年を見据えるために

○開港から 150 年を迎える節目の今、これまで続いてきたまちづくりの流れを途絶えさせることなく、新しい新潟の都市デザインを描くために、現在の新潟に至るまでの都市構造の変遷を振り返る



都市デザインの基礎

○信濃川の恵みにより発展してきた新潟は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、その都心を形成してきた
○一方で、信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行うことで、新潟は発展の礎を築いてきた

❷ 新潟都心の都市構造の変遷と今後

参考資料：新潟歴史双書

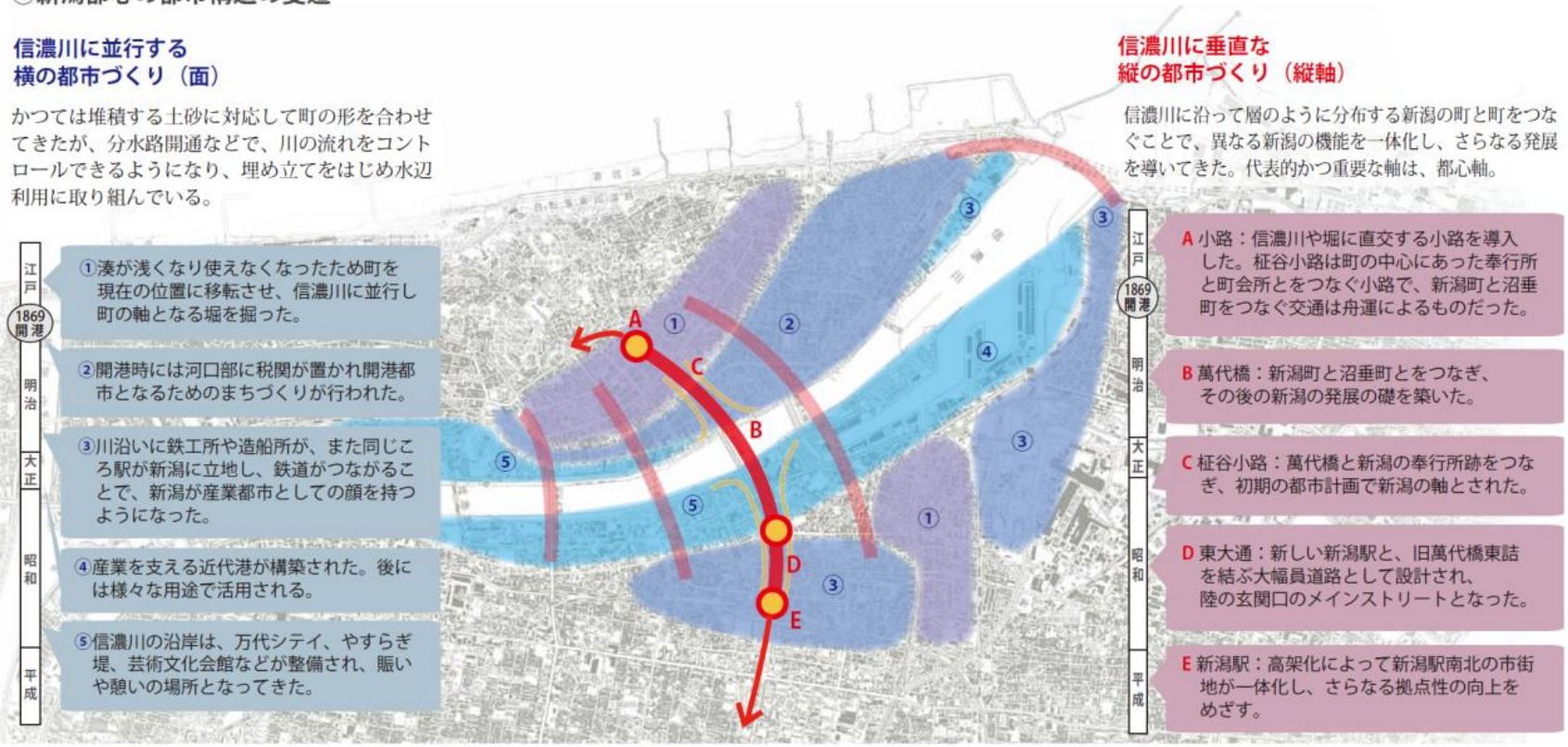
①新潟都心の都市構造の変遷

信濃川に並行する横の都市づくり（面）

かつては堆積する土砂に対応して町の形を合わせてきたが、分水路開通などで、川の流れをコントロールできるようになり、埋め立てをはじめ水辺利用に取り組んでいる。

信濃川に垂直な縦の都市づくり（縦軸）

信濃川に沿って層のように分布する新潟の町と町をつなぐことで、異なる新潟の機能を一体化し、さらなる発展を導いてきた。代表的かつ重要な軸は、都心軸。



②今後の都市デザイン

○開港から 150 年、新潟の都心は信濃川に向かって層状に拡がり、それらの市街地が縦の軸によって深くつながり発展してきた

○層状に拡張した市街地の中では、さらにその空間が高度化・多機能化し、今まで発展を支えてきた都市機能の更新や身近なまちづくりが始まっている

○これからの新潟都心の都市デザインは、それぞれの面の成り立ちや特色を活かしたまちづくりの上に、みなとまちの発展の歴史を、歩行者や公共交通で移動する人が実感できる、信濃川や港を核としたまちづくりを展開する

❸ 新潟都心の都市デザイン

参考資料：新潟歴史双書

①都市デザインの出発イメージ

新潟を特徴づけてきた、奉行所から始まる軸の都市づくりは、150 年かけて新潟駅へとつながってきた。

開港 150 周年を契機に、今度は新潟駅から、地域への愛着と誇りを醸成するような、人を中心とする新しい新潟の軸を考える。

新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは…

○かつて信濃川に並行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する

○それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す（新潟駅～古町間で約 2km）

○将来的には、この軸が新潟の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す

参考イメージ

シャンゼリゼ大通り (パリ)…約 2km　御堂筋 (大阪市)…約 4km

※写真はイルミネーションイベント

②新潟駅から始まる取り組み

旧市街ゾーン
江戸時代から続く小路であり、みなとまちの歴史や文化が感じられる通り

鏡橋

開化ゾーン
明治初期に高級住宅街として生まれた礎町や萬代橋を含む、文明開化を感じさせる通り

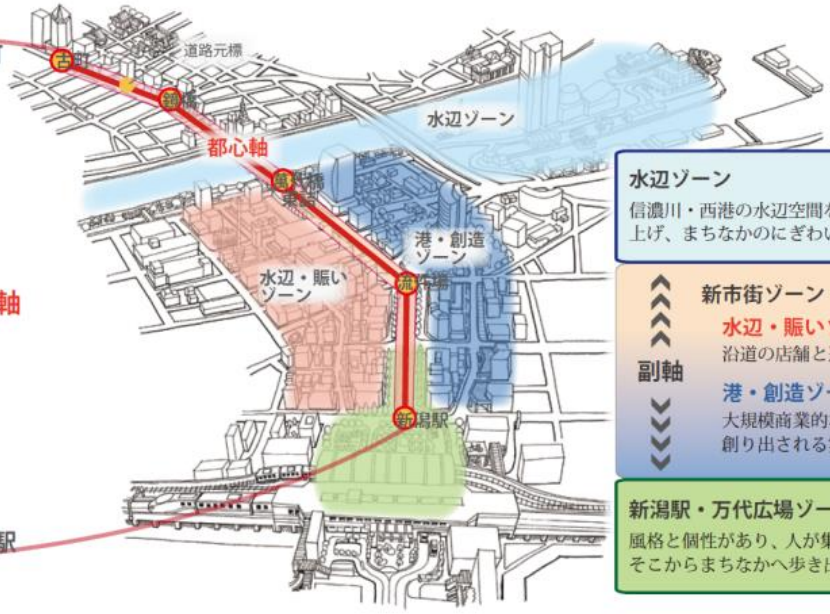
萬代橋東詰

新市街ゾーン
昭和の初期に信濃川を埋め立てて造られて以降、現代的な都市づくりが行われた、賑いを感じられる通り

流作場

玄関口ゾーン
都心軸で最も広幅員に設計された、新潟を訪れる人々が、日本海拠点都市の風格と機能を感じられる通り

古町 ↓ 都心軸 ↓ 新潟駅



水辺ゾーン
信濃川・西港の水辺空間を、新潟独自の魅力として磨き上げ、まちなかのにぎわい空間として強化（交流軸）

新市街ゾーン

副軸

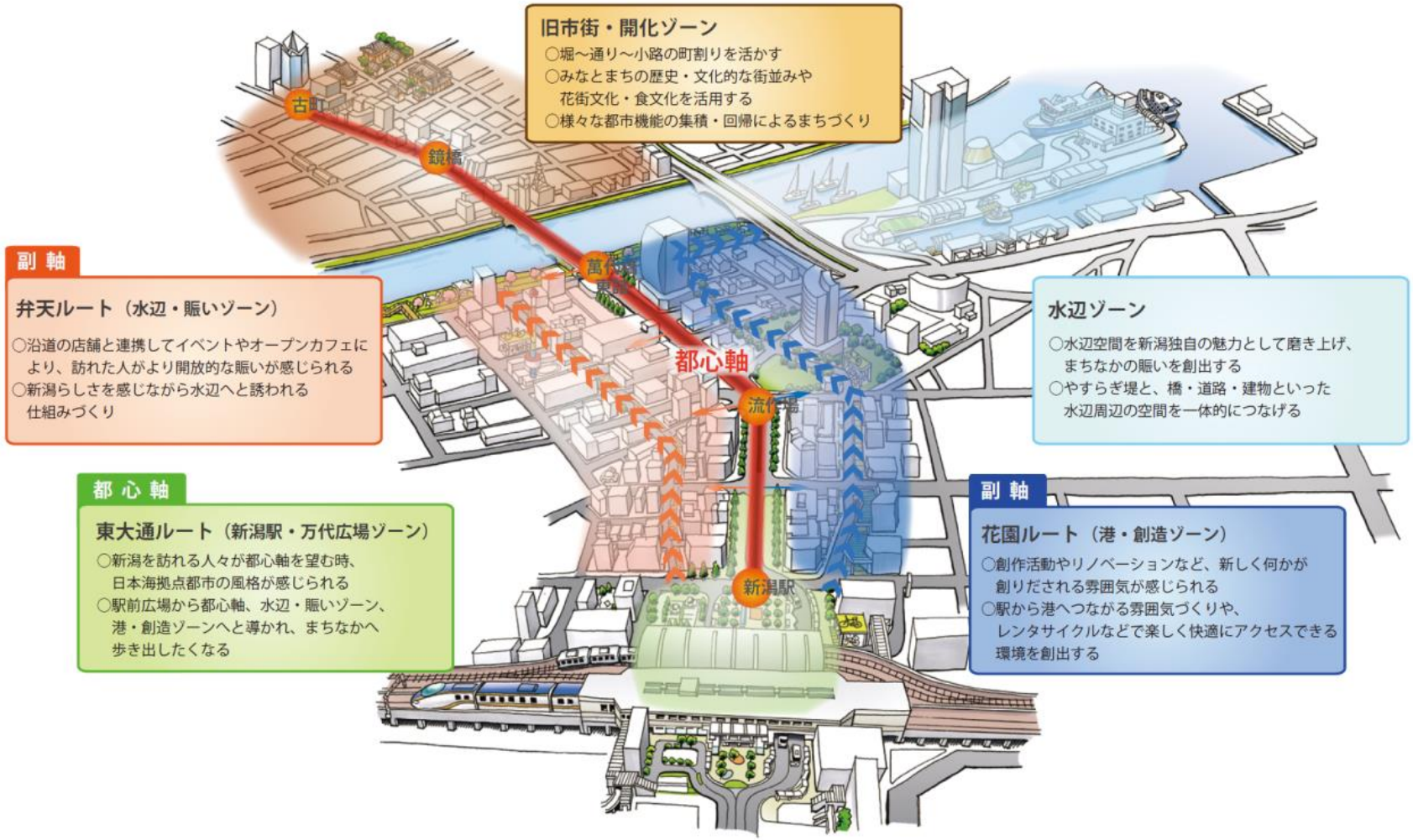
水辺・賑いゾーン
沿道の店舗と連携した賑いを感じられる通り

港・創造ゾーン
大規模商業的な西側とは性格が異なり、何かが創り出される雰囲気の空間が続く通り

新潟駅・万代広場ゾーン
風格と個性があり、人が集まりやすい機能と集まる空間、そこからまちなかへ歩き出したくなる環境を強化

❹ 次世代のまちづくりに向けて

開港から 150 年をかけて形成されてきた不動の軸 (新潟駅～古町) を、
次世代のアイデンティティとしていく



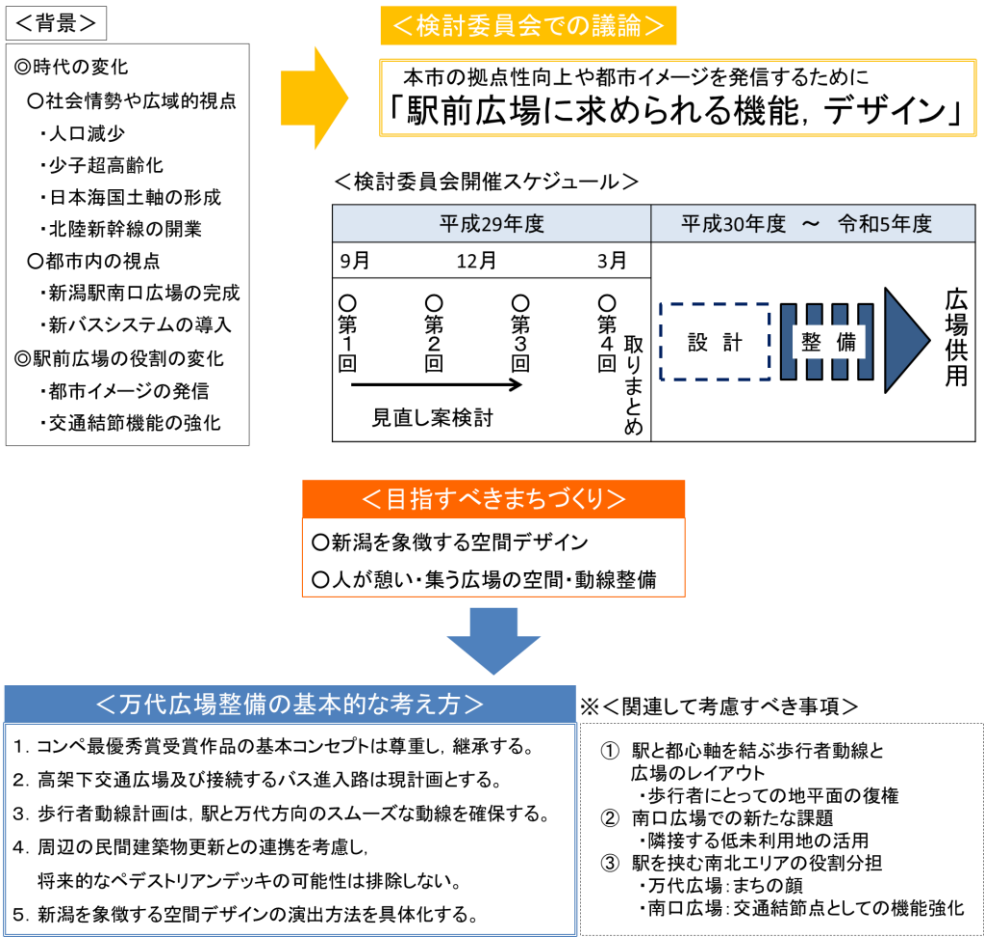
5. 新潟駅万代広場等整備検討委員会

本市の人口は、平成 17 年をピークに減少局面に入っており、少子超高齢化が進行している中、日本海国土軸形成の一翼を担う「日本海拠点都市」として本市の拠点性を高めるためには、持続的に発展する都市づくりを進める必要があります。

新潟駅周辺整備事業は、鉄道を横断する幹線道路整備や駅前広場の再構築により、安全で円滑な交通機能の強化や駅利用者の利便性向上、周辺土地利用の高度化など大きな効果が期待されていますが、都市間競争における優位性を獲得するためには、**本市の拠点性向上に向けて、都市イメージの発信や交通結節機能の強化などの付加価値を高めることが重要**であると考えています。

このことから、**平成 29 年度より検討委員会を開催し**、新潟の顔となる万代広場の計画について、平成 13、14 年度の計画提案競技最優秀賞受賞作品の**基本コンセプトを継承しつつ、時代の変化や課題を的確に捉え、専門的・学術的見地から意見をいただきながら見直しを行う**こととしました。

以下で、検討委員会でとりまとめた万代広場の将来の方向性についてご紹介いたします。



新潟駅万代広場の将来の方向性

○空間形成と機能

万代広場の将来の方向性について、次頁の図に表しました。南側を含めて駅前広場から外への視点がわかるよう図にしています。

方向性のポイントとして、「まちと駅のつながり・広がり・一体感」、「人・公共交通中心の空間形成」、「わかりやすさ・使いやすさ」、「南北の役割分担」の４項目を挙げました。

「4.新潟都心の都市デザイン」で示した赤の「水辺・賑いゾーン」や、青の「港・創造ゾーン」、これらと駅前広場がスムーズにつながり、まちとの一体感を作り出していくことが重要となります。そのために、駅前広場から東大通へ連続する歩行者空間の創出や、東大通の道路空間再構築による広場的空間の創出、そして、利活用や景観形成における駅前広場と東大通の一体的な取り組み、これらによって、「まちと駅のつながり・広がり・一体感」を作り出します。駅前広場や東大通は「人・公共交通中心の空間形成」が望ましいと考えます。

また、「わかりやすさ・使いやすさ」も重要であり、観光客やインバウンドなどの来街者にもわかりやすい動線や、案内サイン、情報発信、休憩施設など多様な機能を搭載した道しるべの設置が必要と考えます。

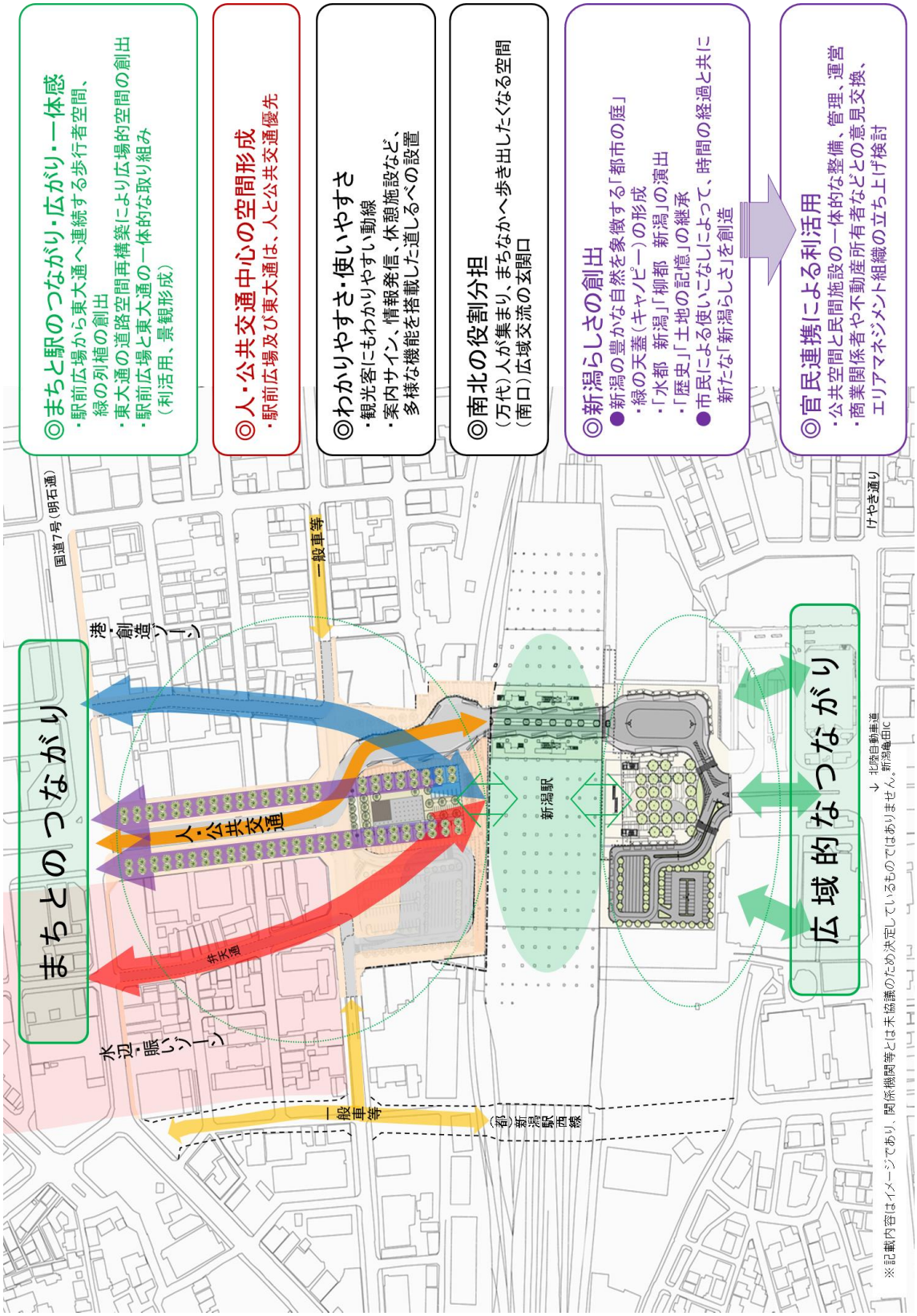
さらに、万代側は「まちとのつながり」を感じられるよう、人が集まり、まちなかへ歩き出したくなる空間としての役割を、南口側は、南口広場から「広域的なつながり」を持てるよう、広域交流の玄関口としての役割を持たす必要があると考えます。

○中央広場の新潟らしさ・利活用

万代広場内の中央広場を中心とした、新潟らしさ、利活用については、シンボリックなオブジェを配置するのではなく、緑の天蓋の形成、水盤や柳の列植等による「水都新潟」「柳都新潟」の演出、この場所の「歴史」や「土地の記憶の継承」により、広場のコンセプトである新潟の豊かな自然を象徴する「都市の庭」を作り出し、新潟を印象付けるモニュメンタルな空間とするとともに、この広場で新潟の酒・食を展開するなど、市民が自由に使いこなすことによって、時間の経過と共に新たな「新潟らしさ」を創造していくこととしています。

そして、その新潟らしさを育て、成長させていくためには、官民連携による利活用が重要となります。駅前広場や道路などの公共空間と沿道の民間施設の一体的な整備、管理、運営に向け、今後、商業関係者や不動産所有者などとの意見交換を行いながら、エリアマネジメント組織の立ち上げを検討することが必要と考えます。

新潟駅万代広場の将来の方向性



6. 万代広場基本設計のポイント

平成 30 年度～令和元年度にかけて、検討委員会でとりまとめた将来整備の方向性をもとに、関係者と協議しながら、基本設計を進めるなかで、整備計画の一部見直しを行いました。平成 13、14 年の計画提案競技による駅前広場の基本コンセプト「人、交通、自然が気持ちよく循環する『都市の庭』」を継承し、周辺市町村との合併及び政令指定都市への移行や、新潟都心の都市デザインなどを踏まえ、**①広場の役割と新潟らしさの検討**、**②広場からまちへのつながり**、**③バス、タクシー、自家用車の動線分離**の **3 つをポイント**として、**植栽や施設配置の見直し**を行い、整備計画案を作成しました。

整備イメージ

基本設計見直しのポイント

① 広場の役割と新潟らしさの検討

② 広場からまちへのつながり

③ タクシーと自家用車の動線分離

① 広場の役割と新潟らしさの検討

新潟の陸の玄関口として、広場内の安全で円滑な交通処理や、鉄道バスの乗換え利便性向上等の交通結節点としての機能強化だけでなく、市民が誇りに思う場とするため、「新潟らしさ」を表現した、緑あふれ、人々が憩い、集うことができる居心地の良い空間を整備します。

本整備計画案は、**「新潟市 8 区の水と緑のつながり」**をテーマに作成しました。水をイメージした透明感のある水色の上屋（シェルター）を配置することにより、市内を流れる 2 つの大河、信濃川、阿賀野川や、鳥屋野潟、福島潟、佐潟等の点在する潟を表現しました。また、植栽に高木や低木、落葉樹や常緑樹など、様々な樹木を用いるほか、少し高さを設けたドーム型とすることにより、美しい里山を表現しました。ペデストリアンデッキから見える、これらの配置された広場の眺望は、新潟の豊かな自然を感じられるものとなります。

① 広場の役割と新潟らしさの検討

◇「新潟市 8 区の水と緑のつながり」をテーマとして整備。

◇ペデストリアンデッキからの眺めで新潟らしさを演出。

・上屋（シェルター）で信濃川や阿賀野川、点在する潟を表現。

・高木や低木、落葉樹や常緑樹など、様々な樹木で美しい里山を表現。

② 広場からまちへのつながり

<u>雨や雪にぬれず、駅からまちへと歩き出す快適な歩行空間を確保</u>します。上屋の配置に合わせてバス乗降所等に防風壁を設置し、天候が悪い時期へも考慮した歩行空間とします。また、広場でイベントを開催する場合にも、イベントが歩行者動線を遮ることがないよう施設を配置します。

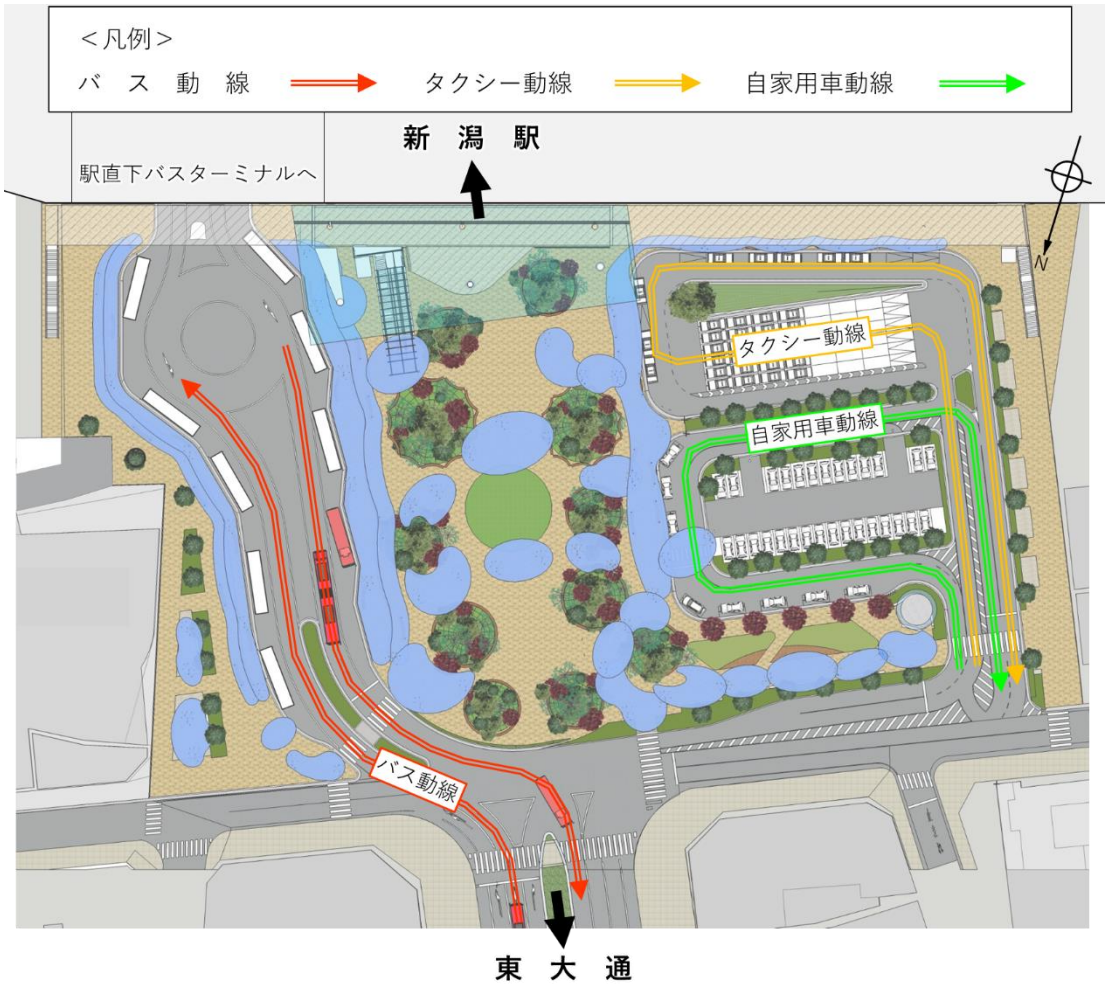
また、新潟駅・万代広場ゾーンは、次世代のまちづくり向けて描く都市デザインにおいて、みなとまち、水辺空間へと導く都心軸、副軸の起点となります。「新潟市８区の水と緑のつながり」をテーマにした万代広場が都心軸の起点となり、市民や新潟を訪れる人々を、みなとまちへと誘います。

② 広場からまちへのつながり

◇雨や雪にぬれず、駅からまちへと歩き出す快適な歩行空間を確保。

③ バス、タクシー、自家用車の動線分離

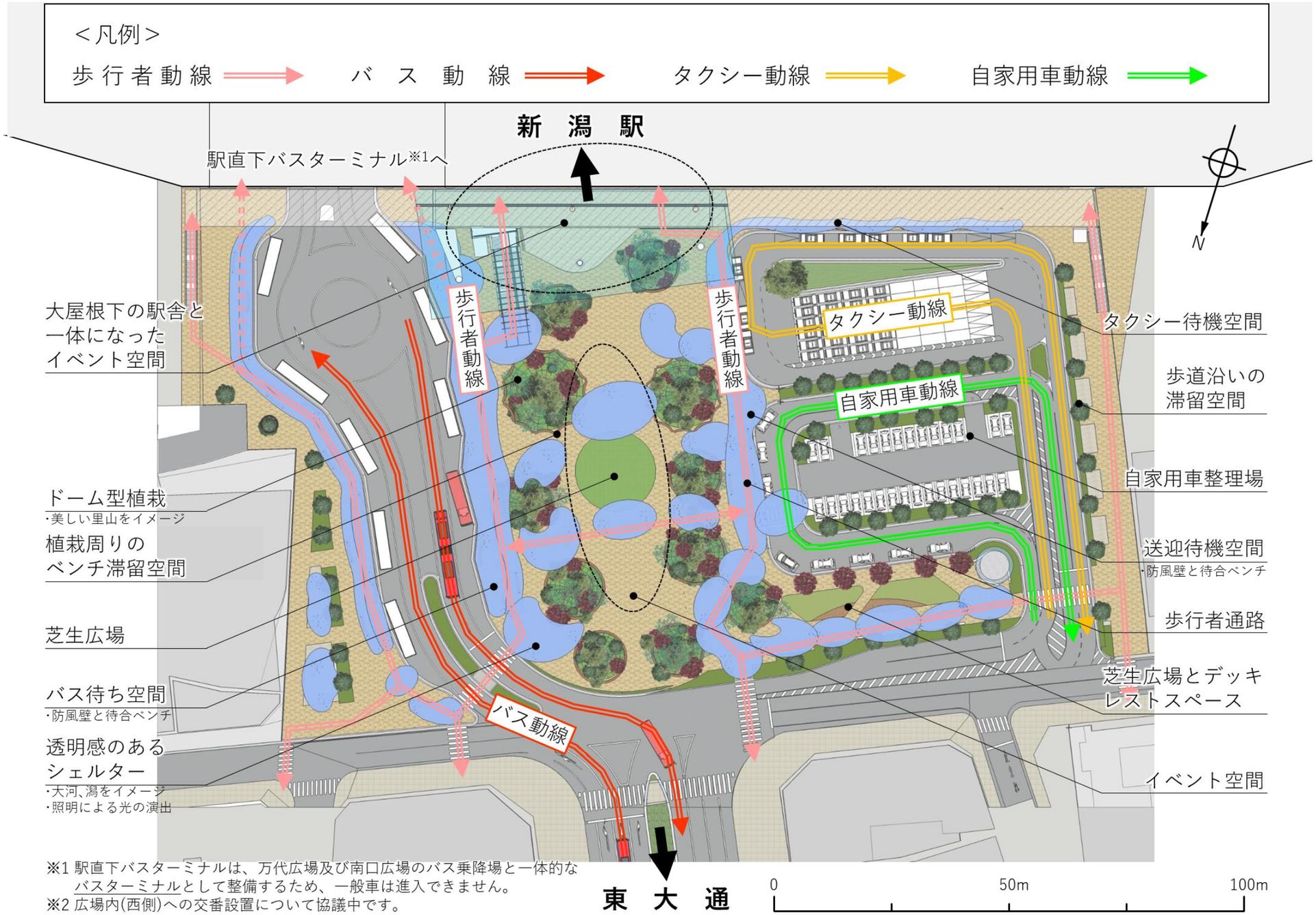
広場内の安全で円滑な交通処理のため、**バス、タクシー、自家用車の専用動線をそれぞれ分離させて確保**します。



③ タクシーと自家用車の動線分離

◇広場内はバス、タクシー、自家用車の専用動線をそれぞれ確保。

7. 万代広場整備計画案イメージスケッチ



※1 駅直下バスターミナルは、万代広場及び南口広場のバス乗降場と一体的なバスターミナルとして整備するため、一般車は進入できません。
※2 広場内(西側)への交番設置について協議中です。

〔整備イメージスケッチ〕

東大通方向から広場全体をのぞむ
（昼間）

東大通方向から広場全体をのぞむ
（夜間ライトアップ）

ペデストリアンデッキから広場･都市軸方向をのぞむ
（昼間）

ペデストリアンデッキから広場･都市軸方向をのぞむ
（夜間ライトアップ）

ペデストリアンデッキ西側から中央広場をのぞむ
（昼間）

ペデストリアンデッキ西側から中央広場をのぞむ
（夜間ライトアップ）

中央広場からペデストリアンデッキ大屋根･駅舎側をのぞむ
（昼間）

中央広場からペデストリアンデッキ大屋根･駅舎側をのぞむ
（夜間ライトアップ）

中央広場から東通り方向をのぞむ
（昼間）

中央広場から東通り方向をのぞむ
（夜間ライトアップ）

中央広場から広場西側をのぞむ
（昼間）

中央広場から広場西側をのぞむ
（夜間ライトアップ）

中央広場側バス待ち空間　駅舎方向をのぞむ

中央広場側バス待ち空間　東大通方向をのぞむ

広場東側バス降車場　東大通方向をのぞむ

中央広場西側送迎待機空間　駅舎方向をのぞむ

広場西側タクシー乗降場　中央広場方向をのぞむ

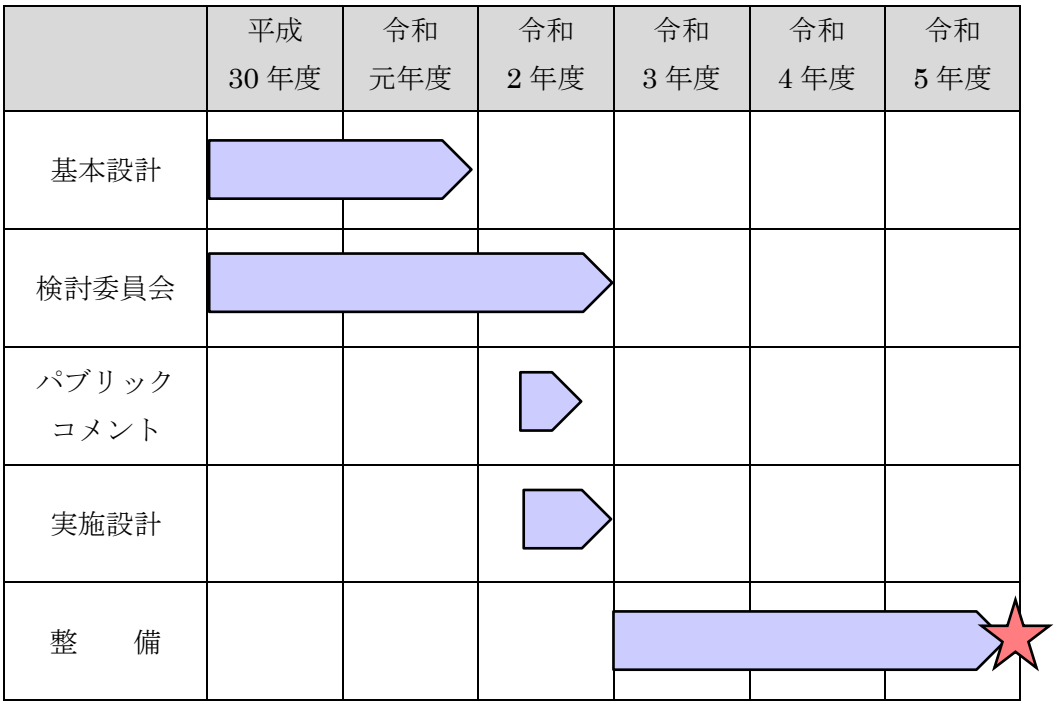
中央広場地上階からペデリストンデッキ大屋根をのぞむ

ペデストリアンデッキ東側から中央広場大屋根側をのぞむ

ペデストリアンデッキ東側から中央広場大屋根側をのぞむ

8. 万代広場の整備スケジュール

本パブリックコメントでいただいたご意見や、検討委員会における議論も踏まえながら設計を行い、令和 5 年度頃の供用開始を目指し、万代広場の整備を進めます。



9. おわりに

新潟駅万代広場は新潟の顔となる広場です。これまで市民のみなさまから意見をいただきながら広場整備計画の熟度を上げてきました。

今後も、市民のみなさまが将来にわたり誇ることができ、人々が集い、憩い、賑わうよう、市民のみなさまと共に広場の整備を進めていきます。

また、整備後についても、市民のみなさまと共に広場を育てていくということが重要であると考えています。

今後とも引き続き、市民のみなさまのご協力をお願いします。

現在の万代広場

現在の南口広場

【作成担当】
新潟市都市政策部
新潟駅周辺整備事務所

〒950-0911
新潟市中央区笹口 1-2-2
プラーカ 2　7 階

TEL　025-245-1261
FAX　025-245-1259
E-mail　ekishu@city.niigata.lg.jp